

# 京都教区時報

第207号

田中司教認可  
毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨  
編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F  
カトリック京都教区ザビエルネット/アクセスNo.075-467-1676 ゲストID:GUEST  
通信速度:1200-28800bps 通信条件:N, 8, 1, X, N 接続環境:単回線24時間



2  
1995

## 分かち合いの共同体

20XX年にむけての京都教区の取り組みのための一試案で、信徒養成の具体的な方法の一つに、「待降節、四旬節の黙想会の替わりに、養成コースを組み入れる」というのがあります。

昨年の十一月十三日に、大津・唐崎・安曇川の共同司牧の教会を対象に、福音センターの所長である柳本師を招いて大津教会で分かち合いを取り入れた黙想会が行われました。又、十二月四日の大和八木教会の黙想会でも、同じ内容で行われました。

信徒使徒職養成コースは、今まで各小教区より派遣された人が対象で行われてきましたが、せっかく養成を受けても、共同体が受け入れる態勢がないと生かされませんでした。こうしたことが起こらないように、共同体全体がよりよき宣教共同体となるために養成される必要があります。そのために共同体の分かち合いが必要不可欠です。皆さんの各小教区やグループでも、共同体の分かち合いをしてみませんか。

(写真は青年センターの「本音のつどい」での分かち合い風景)

## 京都教区アンケート

## 解説書①

設問1～6を通して今後を見れば

※信徒の増加、特に若い信徒の増加がなければ、召し出しも考えられない。

## （一）信徒側の課題

（1）家庭内での学び合いの必要性  
一、家庭内での分かち合いを活発にする。

二、家庭内で司祭職（また修道生活）について、学び合う場をもつ。（司祭に対する固定観念や過大評価をなくす。司祭職と司祭個人との混同）。

三、召し出しという言葉が司祭（また修道者）になることに限定しないで、結婚することも、シングルで生活することも、神からの召し出しであることを明確にする。  
四、家庭内で、子どもとともに、子どものための祈りをする。日常生活での素晴らしさや喜びを分かち合い、祈る。

以上のことを実践した場合、「本人にまかせる」が本当に子どもへの意志を尊重していることになると思う。

## （二）社会の影響

一、家庭内外において、信仰の証しができるような雰囲気、たとえ遊びにおいても、相手を思いやる行いや言葉を大切にする。

二、「社会の影響」の内容を、もう一度具体的に調べてみる。

三、社会問題に、信徒すべてが深い関心をもってかかわる。

四、物質主義の影響の大きい現代社会の中で、信仰を育てる手立てを真剣に見直す。

五、一人っ子も増えている現在、受洗や召し出しについて親や親戚などとの関係の不安（先祖、墓、仏壇など）についての疑問など）を取り除く。

## （三）信仰の生涯教育

一、教会共同体の中での分かち合いを大切にす。

二、自分の信仰を育てるため、教会共同体や福音宣教のあり方を学ぶために、種々の練成会や講演会や研修会などに積極的に参加する。また福音センターの資料も活用する。

三、福音が若者の心に響くように

するには、どうすればよいかを考える。たとえば、フィリピン、パングラディシユなどへの派遣、また今後その体験をどう活かしていくかの課題。

四、青少年の司牧に力を注ぐ。年齢に応じた信仰教育を確立する。特に若者の心に元気が出るような、参加しやすい研修会などを企画する。青年センターをより充実させるため、メンバーの養成、継続などを考え、設立時の趣旨に沿って見直す。

（二）修道者・司祭側の課題

（1）司祭の生活に対する不安解消の手立て

一、経済問題や老後の問題について、信徒側に説明する。  
二、司祭に対するよくない噂や悪口は、特に若手司祭の働きを妨げるので避ける。  
三、司祭の役割、信徒の役割をよく話し合い、協力できることを探し続ける。現代の司祭が何故忙しかの、その原因を明確にする。

（2）司祭間の交流の促進

一、任された小教区のことだけでなく、教区全体のことも考えていく。小教区の壁を取り除く。

二、信徒に任せることを大切にす

ていく。

三、司祭間、特に教区付司祭間のより一層の交流をはかる。

四、共同司牧を実施する前に、信徒とともに学び、意味を明確にし、その実りを積極的に知らせる（このことは、司祭間だけの課題ではなく、信徒間の課題でもある）。

## （三）司祭召命の増加を目指して

（1）侍者会の充実と若者への働きかけ

一、教区として、侍者会の相互交流や展望を明確にする。

二、司祭職への直接的なすすめや侍者のやり方を教えることも大切だが、キリスト者であることの喜びを噛みしめられるように、多くの人の出会い（遊びなどを通して）を大切にす。

三、司祭の生活、特に司祭職の魅力（喜び、苦しみなど）を具体的に若者に知らせていく。

四、若い司祭や神学生との交流の場（練成会や合宿などを含めて）を増やし、司祭叙階式への参加を呼びかける。

五、祈りの大切さ（特に祈りは行動を伴うこと）を伝える手立てを

考える。

(2) 召命促進委員会の活動のPR  
一、司祭や修道者への道(年齢のことや勉強のことなど)についてPRする。どうすれば司祭や修道者になれるのか分からない人もあるので。

二、召し出しのための「祈りの日」を決めて、教区全体で祈る。

三、召命促進委員会の活動を更に推進し、PRをもっと行う。

四、他の委員会やグループ(親交会など)との協力関係を更に推進する。たとえば、神学生のスポンサー制度(まだ設立されてない)など。

五、召命を生み出すような教会共同体のあるべき姿を、ともに探し続ける。どうすれば神によって活かされた教会共同体になれるのか。  
六、日本の若者の現状や教区の現状を、今後も分析しながら、PRに努める。

### (3) 「一粒会」制度の充実

一、「一粒会だより」を発行して、神学校生活や神学生の紹介、また会計報告など、密度の濃いPRをする。

二、京都教区独自のポスターを掲示するなど、PRを種々の形で行う。

### (四) その他

一、司祭と信徒は、何でも親しく話し合えることが大切である。ただ、親しさの中に互いに尊敬する心を保ち続ける。

設問7、13を通して今後を見れば

### (一) 公会議・教区ビジョン

#### NICE

(1) お互いをありのままに受け入れ、理解し合えるような分かち合いを、世代を超えて持つ。

青少年においては、同世代の人たち同志でするのもよい。

(2) 福音の精神をもって自己刷新する。

(3) 司祭の影響が強い現状では、先ず司祭が関心を持ち、信徒に伝える努力をしていく。

### (二) 聖書に親しむこと

(1) 聖書使徒職委員会の活動を活発にする。

(2) 聖書百週間・聖書深読会などを紹介する。

(3) 家庭集会・グループで読む会を作る。

(4) 聖書を家族や誰かと一緒に読むことの大切さについて理解を深める。以前、信徒は、誤った解釈をするおそれがあると、聖書(特に旧約聖書)を個人で読まないように指導されていた。

### (三) 祈り

(1) 祈りの大切さは、いまさら言うまでもない。教会の一致のために、一人ひとりが大切にされ、主の恵みに共に活かされて生きていく不断的努力を支えていただければ、個人はもとより共同体で共に祈ることを大切にしたい。

### (四) 自己刷新

(1) 自分がいただいているタレントを見出し、自分ができていることに積極的に参加する。

(2) 『教会は何もしてくれない』という声を聞くが、『私たち一人ひとりが教会である(キリストのからだ)』ことを自覚する(コリント後書12章12、26節を参照)。

(3) 福音センター、研修センターなどの各種養成コースへ進んで参加し、そこで学んだことを自分一人に留めることなく、他の信徒に知らせ、分かち合うことにより、研修の成果の輪を拡げる。

### (五) 小教区へのかかわりと

#### 協力的体制

(1) 一つの小教区でできない行事などを、複数の小教区合同でやる。青少年の少ない小教区では、近隣小教区でまとまって、若者の仲間作りをする。

(2) 他的小教区のミサ・行事などに参加し、所属する小教区でその体験を活かす。

(3) 学校五日制の進展に伴って、児童・生徒に対する小教区としての受け入れ体制を考える。

(4) 今まである教会行事を、「開かれた教会(社会の福音化)」という観点から、もう一度見直していくことも大切である。

(5) 小教区、超小教区で実行可能なことについて、具体的方法を考え、実行する。例えば、滞日外国人労働者の受け入れ体制など。

(6) 教区内外の信徒の会の連携を密にし、情報交換、協力的体制を確立していく。

尚、どれくらいの人数になるかわからないが、小教区行事に「参加が困難」、「できるだけ関わらないようにしている」と回答された人たちの気持ちに思いを馳せることも大切である。(つづく)

# 宣教司牧評議会報告

今期三年間の主な取り組みは、教区が「よりよき福音宣教共同体となるために」(適正配置)という問題でした。中でも、「アンケート調査」の分析とこの解説書を出す事に大変な努力を要しました。

○ 九一年十月、この問題に関するアンケートを依頼、二千三百二十三名の方からの回答を頂きました。九二年三月に結果の報告「京都教区アンケート」よりよき宣教共同体となる為に「適正配置」を、そして、九三年六月に「京都教区アンケート解説書」よりよき宣教共同体となるために「を出しました。この二つは各小教区及び修道会等に送付しています。

このアンケート報告と解説書は、宣教共同体となるために必要な豊かな資料を提供しています。これと真剣に取り組んでいく事により、教会の使命である福音宣教と、共同体作りが促進されるでしょう。

## 1 解説書の活用について

さて、こうして八一年に発表された京都教区ビジョン以来、その具体化としての三優先課題

(1) 青少年の育成

(2) バイブのつまり

(3) 適正配置の問題

についての司教への答申を一応終了した様に思えました。

しかし、「バイブのつまり」について司教から出されていた、更なる諮問が残されていた事に気付きました。が、「バイブのつまり」の問題に逆戻りするのではなく、この解説書を活用し、話し合う事により、「バイブのつまり」(つまり、情報交換及び伝達、又、対話)を解消する事になるのではないかと、この司教の指示がありました。そこで、この取り組みを次期の評議会に提案します。

○ 今回、以下の質問に答えるという形で話し合いを行いました。

一、この解説書をどのように今後活用したいか。

二、私はこの様に活用した。

三、活用出来なかった。

四、その理由は。

出された主な意見を報告します。

※ まず、この解説書の存在さえ

知らされていないのではないかと。これこそバイブのつまりではないか。

※ 確かに解説書は知られてはいないが、そこで語られている事は、種々の場で話し合われ、実行にも移されはじめています。そんな積極的なとらえ方も必要だと思われる。

○

活用についての具体的な話し合いのまとめは次の通りです。

○

※ 解説書は五年後、十年後の問題も示している、これと取り組む必要がある。そのため、その存在を知らせ、使い方も考えておくべきである。二十一世紀の教会を考えるにもこの解説書は大いに役立つのではないかと。

※ 信仰養成が基礎になっていると思われる。養成が進めば、召命の問題にも光が見えてくるだろう。そのためにも考えるチーム、促進するチームを作ってはどうか。

又、小教区でもこういう研究グループを作る事を考えてもらう。

※ 情報が途中で途切れてしまうのを何とか考えたい。

※ 大切なのは、これを活用する気になってもらうことなのだが、信者に問う必要があると言う

が、教会を離れて、この情報から除外されている人々の意見を受けとめる方法を考えるべきだ。

※ その中の問題を一つ一つ取り上げていく努力が今後必要である。

## 2 今後の教区の

### 在り方について

※ 発想の転換期に来ており、二十一世紀に向け準備を進める時期に来ている。新たな優先課題を考える時が来ている。

※ 終身助祭制度の可能性、特別聖体奉仕者の養成の促進。

※ 修道会、修道者の役割と、小教区における位置づけの見直しと協力。

※ 教区時報二〇四号に掲載の「二〇××年に向けての京都教区の取り組みのための一試案」の活用と有効性。但し、司祭にもっと自信を持つてほしいとの印象を受けた。

※ 若者の育成について。若者の気持ちを理解しているか。若者に教会内に居場所があるかを問う事が大切である。

※ 信徒・司祭・修道者の合議機関を作る事を考えたい。

以上、主な討議事項について報告します。

(文責・村上)

# 聖書講座

昨年五月から十月にかけて、「私の聖書の読み方」というテーマで、聖書使徒職委員会主催の聖書講座がありました。参加者の感想を掲載します。

## 聖書の読み方 角度を変えて

匿名希望 S・T

今年のコースも大変よかったです。私達普通の信者が中々入り込めない釜ヶ崎で、労働者の支援者・理解者として働いておられる本田神父様のお話には、強烈に訴えるものがあった。生き方そのものによりキリストを証ししなければならぬという御自身の信念を、そのまま生きておられ、釜ヶ崎での「主の祈り」の一語一句まで労働者への理解が示されている。

また、St.石崎の考古学的読み方もとても面白かった。砂地にノアの洪水のあとの考古学的証明があるとは、聖書を読む時の視野が大きく広げられたように思った。自然界に目を向けながら、生物、いろんな生き物、地球を大切にす

ることも、西野神父様から貴重なお話を伺い、こういう聖書の読み方もあるのだなと思ひ、神父様方、シスター方のすごいお勉強には、本当に感心した。

## 新しい世界を読む

岩田啓子(河原町教会)

やっとこの講座に参加出来るようになった、これが本当の気持ちでした。

森田神父様のお話によって、ミサに与る時の気持ち、そして派遣の意味をはっきり教えていただきました。

又、本田神父様のお話によって、学校、教会を通じても教えていた

## 聖書週間・聖書講演会より

### 神を「知る」こと「愛する」こと

昨年十一月二十日、河原町カトリック会館で、石川康輔神父様(サレジオ会)を講師にお迎えして、「第一コリント十三章(愛の賛歌)を読む」と題して講演会が開催され、約五十人が非常に学理的な内容で展開された論述と解説に、時間のたつのを忘れて熱心に

だけなかつた考え方におどろきを感じながらも、何か新しい世界が目の前に開けた様に感じました。神父様方一人ひとり、お説教と違い、のびのびと自分の考えをお話し下さったように感じました。

## 読み方十色

匿名希望 Q子

かつて、お説教にも不満を覚えていましたが、第一回導入で、村上神父から、気の合わない神父であっても、心を無にしてみことばを聞く時、聖霊が働いて下さって、神のみことばが聞けると聞いて、心が変わりました。以来御ミサに与ることが出来ることを心から感謝

耳を傾けさせて頂きました。

まず導入においてアガペーと他の愛について触れられ、次に聖書を読む時には文脈の把握が重要であり、十三章を的確に理解するためには、前の十二章と後の十四章にも眼を通すことが大切であると助言されました。

してあります。今回聖書の読み方はそれこそ司祭十人十色、いろんな読み方があり、司祭の人柄がはつきり浮かび出て面白かったです。御受難会の来住(キシ)神父は、聖書は聖書を律法として読むのではなく、福音として読むことをわかりやすく話され、福音感覚が大切だと言われました。それに対して、終わりになって、本田神父様は釜ヶ崎に身をおいておられるので、そこからの叫びが伝わり理解はできたつもりですが、何か重いものが今も残り激んでいます。今回も参加出来てとても良かったです。

そして、十三章の愛の特質(二つが一組で、七組のパターンに集約される)について逐次説明されました。さらに、人間の成長について愛も成長しなければならず、私が人を愛する時には私の中に神が働いているとされたうえで、神を「知る」ことと「愛する」ことは同質のものであると結ばれました。

# 「尊厳死」宣言書の取り組み

四日市教会信徒会

昨今「尊厳死」「安楽死」についての人々の関心がとみに高くなりその報道も多いのは、人の命に直接係わる医学による治療延命技術が、私たちの生命の質と量を左右出来るまでに進歩したからと言えなくもないでしょう。私ども四日市教会では93年秋頃から主任司祭にこの問題を提起され、94年度の信徒役員会で約半年かけてこの問題について勉強して、この度左記のような「宣言書」を作り司教認可も受けました。

内容の基本的な理念は末期の過

たら自分か家族が医師に提示するようになっています。(文責/篠田)

## 「尊厳死」宣言書

もし私が与えられる治療に対して自分の意志を表わすことが出来ない状態に陥った時の為に、熟慮の上本宣言書を司祭の署名を添えて書き残します。

私はキリスト者として死は神様のもとに永遠に続く命への門であることを信じています。ですから私は愛する人々とこのキリスト教信仰の慰めを支えられて、心安らかに死を迎えたいと望んでいます。そこで自分の死を人間としての尊厳をもって相応しく受け入れることが出来ますように、下記の事項につきまして関係各位のご理解とご援助をお願い申し上げます。

記

1. もし私が重症に陥り治療の見込みが全く無い場合に、普通の治療を頂くのは結構ですが、不釣り合いで無理に死を退ける過剰な治療はお断りします。
2. 第1項と同じ場合に、痛みや苦しみを緩和させる為に例え寿命が多少短くなっても、鎮痛剤や麻薬の使用など適切な治療をお願いします。
3. 第1項と同じ場合に、積極的消極的を問わず故意に死に至らしめる「安楽死」はお断りします。

以上実際の治療場面ではご判断が困難であることは十分承知しておりますので、関係各位にその責任や精神的責めなどのご負担をお掛けせぬ様、私は当件の実施により派生する問題は、その一切が私に属するものであることを宣言致します。

年 月 日

署名人住所 \_\_\_\_\_

同 氏名 \_\_\_\_\_ 印

(生年月日 年 月 日)

\*上記の方は当教会の信徒であることを証明します。  
カトリック四日市教会（四日市市十七軒町2-4）

主任司祭 \_\_\_\_\_

(署名年月日 年 月 日 No. / )

## 京都元和の記念碑建立の会計報告書

平成1年6月～平成6年10月

[収入の部]	
京都元和の記念碑への献金合計	2,840,869
京都の大殉教の本代値引き分（1割引）	12,500
預金利子合計	281,418
<b>収入合計</b>	<b>3,134,787</b>
[支出の部]	
事務費	86,040
通信費	46,687
宣伝・渉外費（ポスター・コピー等）	20,036
印刷代（元和殉教御絵・その他資料）	402,650
石碑代	1,480,000
慶弔費	70,000
銘板・プレート代	72,100
カプセル代	133,900
謝礼（ミサ・講話）	115,000
搬送料	618
交通費	54,320
写真代	10,304
会議費	90,576
本代（京都の大殉教）	125,000
雑費	48,106
支払利子・税金	47,526
記念碑管理費として教区事務所に保管	331,924
<b>支払合計</b>	<b>3,134,787</b>

上記の通り報告します。

平成6年10月25日 記念碑を建てる会会計 木村幸雄  
以上の会計報告書各項に亘り慎重に監査した結果、その  
適正なることを認めます。

平成6年10月30日

会計監査 斎木嘉作

## ご案内

☎ 075(822)7123  
☎ 075(822)7020

### 95年度 信徒使徒職養成コース

- 第101回 基礎コース  
会場 津・研宗館  
期間 4月21日(金)～23日(日)
- 第102回 病人司牧コース  
会場 売布・黙想の家  
期間 5月12日(金)～14日(日)
- 第103回 基礎コース  
会場 奈良野外礼拝センター  
期間 6月23日(金)～25日(日)
- 第104回 祈りのコースⅠ  
会場 唐崎ノートルダム 祈りの家  
期間 7月7日(金)～9日(日)
- 第105回 典礼コース  
会場 野田川町ユースセンター  
期間 8月25日(金)～27日(日)
- 第106回 祈りのコースⅡ  
会場 唐崎ノートルダム 祈りの家  
期間 11月10日(金)～12日(日)
- ☒くわしいことは日時が近づき次第、お知らせしていきます。  
問い合わせ  
カトリックきょうと福音センター

青年センターバレーボール大会

河原町教会 岩田圭司

十一月六日(日)、毎年恒例となったソフトボール大会に、今年も河原町教会から一チーム参加させてもらいました。あいにく雨天の為、グラウンドは使用できずソフトボールは中止になってしまい、室内でのバレーボール大会に変更されました。

一部の現役学生を除いては、この数年来バレーボールなんて触った事もない者ばかりでしたので、心配されていましたが、これが意外にも好試合にもつれこむことになったのでした。

激しいスピードの試合模様、なんととっても得点の半分はサーブミス(残りの半分はサーブミス)、試合時間の短いこと短いと……。

とはいえ、ボールに慣れることにつれかなり長いラリー戦を楽しめるようになっていました。(が、アタックなどの決め手が無いので端目で見ていると、ボールに見事に踊らされていて、こっけいというか、じれったいというか……)で、決勝、三つ巴戦の結果、うち



のチームは準優勝にとどまり、惜しくも優勝を逃したのですが、体に残る疲労感が心地よく感じていました。

なんととっても、他の教会の人達と交流する機会が少ないので、こういったイベントで真面目に遊ぶというのは、親睦も深めやすく、盛り上がりやすいので、大変楽しかったです。

○ P・S 後で聞いたところ、試合翌日、筋肉痛と打身で悩まされたものが数名出たという噂です。あしからず。

■西院カトリック会館行事

問合せ・075-822-17123

福音センター

- ▽柳本神父の雑学講座「富士山」  
1日10時半
- ▽中川師の聖書講座(創世記)  
16日14時~16時 費用五百円
- ▽おてんとさんの会 毎週火曜日

■河原町カトリック会館行事

- (未掲載は6階ホール)
- ▽カナの会結婚相談室  
5日13時半~15時
- ▽平和への歩み京都南部実行委員会  
9日19時半
- ▽京都カトリック混成合唱団  
12日14時 25日19時

■京都南部地区の行事

- ▽手話教室 金曜日(第2は休み)  
10時半~12時 西院教会  
費用二百円
- ▽卒業式 7日 洛星高等学校
- ▽信睦二金会 10日 西陣教会
- ▽みこばを聞こう  
テーマ・出来事としてのイエス  
イチャローの打法とマルコの手法  
日時・11日9時~16時半  
講師・米田彰男(ドミニコ会)  
対象・青年男女  
場所・ドミニコ女子修道院

13時~16時半 お茶代百円

- ▽Sr.アスタの書道教室 毎週金曜日14時~16時 月謝二千元
- ▽カトリック聴覚障害者の会手話教室 火曜クラス10時半~12時 木曜クラス 聖書研究と手話の勉強19時半

- ▽一万匹の蟻 15日19時
- ▽レジオ・マリエ京都コミチウム  
19日13時
- ▽St.ドローレスの聖書講座  
24日10時半~12時
- ▽キリシタン研究会 26日

申込・7日まで

☎075-1231-2017

- ▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 12日 河原町教会
- ▽糖みその会 23日 九条教会
- ▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会京都中央理事会 26日 河原町教会
- ▽京都JOC(働く人の家)の行事ティーパーティー 18日  
☎075-1672-16569

教区スケジュール

- 2月
- 2日(木)古屋司教命日
  - 3日(金)YBU責任役員会・田中司教出席
  - 5日(日)日本二十六聖人記念ミサ(フランシスコの家)
  - 9日(木)司教顧問会(河原町会館)
  - ▽京都南部及び教区司祭月例会(河原町会館)
  - 14日(火)ノートルダム教育修道女会今海道町修道院祝別式
  - 20~28日田中司教ローマ公式訪問「アドリミナ」
- 
- 〔追加〕
  - 3月中旬アジア交流委員会よりバングラディッシュ派遣
  - 〔変更〕
  - 5月27日(土)国本神父の音楽講座
  - 6月10日より変更

お知らせ

★金祝おめでとうございます  
 ヴィアートル会司祭村田源次師  
 ウィチタ聖ヨゼフ修道会  
 Sr シャーリン・ハッフィンソン

★銀祝おめでとうございます

- カルメル会 Sr 託身のテレィズ・ジョセフ吉原邦子
- 聖母カテキスタ会
- Sr フランシスカ中根滋子
- Sr マリア村口篤子
- ★帰天
- レオ・スタインバック師(メリノール宣教会) 89歳
- 94年10月31日米国で
- トニー・グリーン師(マリスト修道会) 68歳
- 94年12月1日登美ヶ丘教会で
- Sr ベルナデッタ・ゴータ(スウェール愛徳修道会)
- 94年10月22日フランスで
- ★司祭評議会より
- 1月4日の会議で新しいメンバーが次のように決まりました。
- (任期3年)
- 議長・ウォルシュ師
- 常任委員・瀧野師、柳本師
- 評議員
- 司教代理・村上(真)師
- 教区付司祭代表・花井師、瀧野師、柳本師
- メリノール会京滋地区代表・ネリグ師、三重地区代表・ジャクソン師
- レドンブートル会代表・ブシャー
- ル師

マリスト会代表・ウォルシュ師

- ヴィアートル会代表・ボアベール師
- エスコラピオス会代表・リベロ師
- その他の会代表・ロベス師
- ★集會司式者・聖体奉仕者京滋地区学習会
- 25日13時 河原町会館
- テーマ・典礼における詩編の役割
- 注記・今まで特別聖体奉仕者という呼び名を使っていましたが、主日・祭日の集會祭儀を司式する奉仕者(司祭・助祭を除く信徒)を集會司式者と、ミサや集會における聖体授与と病者の聖体授与の奉仕者を聖体奉仕者と呼ぶことが司教會議で確認されました。
- ★滋賀地区の行事
- ▽「共同司牧について考える」研修会 11日 滋賀県連合会主催
- ▽滋賀県連合会 19日 大津教会
- ★奈良地区の行事
- ▽ボランティア養成基礎講座第9回「老人の問題」
- 23日19時半~21時 奈良教会
- 講師・広岡洋子
- 連絡先・西原
- 074217116031

★京都北部地区の行事

- ▽北信連常任委員会
- 12日14時~16時
- 宮津ラルーブ館
- ★その他
- ▽インドへ友愛の手を! チャリティーコンサート
- の報告と御礼
- 昨年10月13日に開催し、左記の金額を援助させて頂くことができました。皆様のご協力とご支援に心より感謝と御礼を申し上げます。ボンベイの聖ヨゼフホーム援助金
- 913、112円
- ▽「一万匹の蟻運動」基金報告
- 累計 7、596、207円
- 加入者 737名
- (12月19日現在)
- ▽編集部よりお知らせ
- お知らせに載せたい行事の情報は、4月号でしたら2月22日までお願いいたします。

あなたの良き隣人として  
 カトリック御葬儀  
 貸物一式(仏式可)  
**聖ヨゼフ葬典社**  
 パウロ 杉下安雄  
 (西院教会所属)  
 京都市右京区西院寿町23  
 ☎ (075)312-7829